

【日本的消防（二）】 消防署の一日：夕食と施設、出動と課題

夕食の時間が来た

夕食を署員が作るのは土曜日若しくは日曜日と決まっているようだ。今日は月曜日、取材のために特別の手配をしてくれたとの事、気遣いにもここでも感謝する。メニューはカレーライスだった。座間消防ではずっと以前からカレーライスは定番だそうだ。食堂では女性の救急救命士も男性数名と一緒に支度をしている。当務者 23 人分の食材、肉だけでも 3 キログラム以上準備したとの事、数種類の野菜も大きなボール(食器)に詰め込まれていた。



食事の支度が始まった。



材料切りも楽しそう。



ベテラン隊員も食事作りに参加。



カレーのルーも丁寧に溶かして。



これだけの豚肉が準備された。



鍋の使い方も上手にできる。



肉の炒めも進んでいる。



ここでジャガイモが入った。



さあ野菜が出来上がったようだ。



炊いたご飯の量は2升5合だそうだ。

夕食は出来上がった。「食事準備完了食堂に集合」の放送有り、指令担当者などその場を離れられないものを除いて食堂に集まった。「いただきます」の発声で食事が始まった。昼間の疲れを補い、夜の活動のための夕食だ。皆さん美味しく食べている。お代りもできるそうだ。そう言えばあの隊員は2杯目だ。食事の様子をカメラに収めてからご馳走になった。取材者の分も用意しておいてくれたのだ。カレーのルーはちょっと辛めで硬さは普通、肉や野菜も程よい量が入っていて満足感は十分だ。ご飯の炊き具合もカレーに合った程よい硬さ、これを若い隊員が作ったとは大したものだ。とても美味しくいただいた。ご馳走様でした。



ご飯の盛り付けも手慣れている。



出来上がった今晚の夕食、ヨーグルト付き。



色々な設備や部屋も

新庁舎の設備や各部屋の案内をしていただいた。まずは玄関ロビーに展示された古い椀用ポンプ(人力でポンプを動かし水を出す)が目についた。さらに方向を変えると座間市の名物である大凧(実物は畳 100 枚の大きさ、毎年 5 月に河原で掲揚する男児の祝い事)の縮小物が飾ってある。そこから車庫裏に至ると、救急隊の使用器具や着衣の消毒室、薬剤保管室、消防隊の使用する装着室や各隊の資器材倉庫などが設けられている。



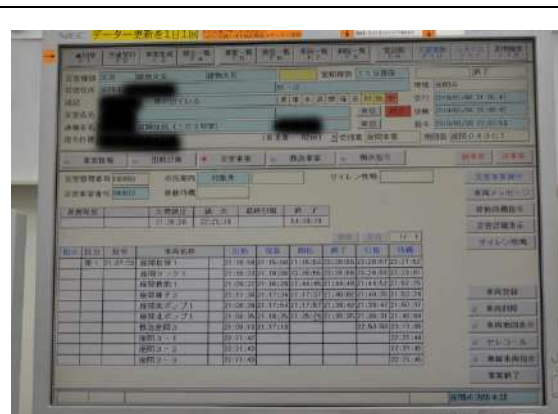
	
<p>救急隊の消毒室。</p>	<p>白衣などのオゾン殺菌装置。</p>
	
<p>救急隊専用の洗濯機と乾燥機。</p>	<p>救急隊員用シャワー室</p>

2階には座間市の起伏の多い地形を縮尺で表した数米の大きさの模型が来客者も見られるように展示されていて、改めて座間市は坂道が多いことに気付かされた。3階に進む、この階が消防署のこれまでに紹介した事務室や食堂を始めとして、情報指令室・隊員が一晩過ごすための仮眠室・シャワー室・洗濯室・洗面室などが備えられている。

緊急出動

本日の午前中、資器材の点検中に救急指令が流れた。救急隊は点検の手を止め、出動体勢に入った。車庫から出て交差点を右に曲がり現場へと向かった。さらに消防隊が車庫前でヘルメットの装着訓練を実施中、救急指令がかかったが、その内容は先程とは異なり消防隊も同時に出動し、現場で人的支援をせよとの指令だ。先に走る救急車の後を支援の消防車が追った。取材中の緊急出動はこの2件

のみで火災出動は無かった。比較的平穏な日であった。なお、2018 年中の座間市における出動件数は火災 24 件、救助 77 件、救急 6671 件、風水害 42 件、安否確認 57 件である。



情報指令室は別に設置された指令センターから受けた情報を含めて緊急出動車両とやり取りする。

緊急出動車両から送られてきた情報を示すモニター



出動指令がかかり救急車に駆け寄る隊員。本日の2度目の出動だ

出動をする救急隊。



支援出動で救急隊と共に出動する消防隊。

救急隊と連携出動し、道路を進む消防隊。

今後の課題は

夕食後、救急隊長に現在の課題について質問した。すると次のような答えが返ってきた。近年高齢者の救急依頼が急増しているが、結果軽度の場合が多い。これは発症の際、一人住まいのため相談する人もなく不安になる心境が影響していると思われる。また以前からこの現象は高齢者以外にもみられたもので、対応に苦慮している。依頼者は救急車をタクシー代わりに呼ぶ傾向が認められ、その間に真に救急車を必要とする人が間に合わないことのないよう更に規範を高めて行く必要が求められている。

同様の質問を消防隊長にも向けてみた。文明の進歩により建物の構造や材料そして気密性などが大きく変わってきており、フラッシュオーバー(室内からの高温空気の吹き出し現象)の様相も変化をきたしている。現場の最前線に挑む身としては、効果的な消火戦術と隊員の命を守る安全対策に日々挑戦しているとの答えであった。

救助隊長はこう答えてくれた。現在の資器材や隊員の技量は充実しているが、何時、どの様な災害が発生するのか想定が困難な現在、将来に向かって油断することなく、次世代の若い隊員の技量習得や精神の鍛練の充実を図っていくことが肝要と考える。

こうして約12時間以上に亘る座間消防「本署」の密着取材を行った。取材者としても貴重な体験ができた事を有意義に感じている。消防隊員の技量の高さ、研さんへの努力、忍耐力、精神力など優れた能力を持った人達だと痛感させられた。さらに消防隊員は優しい。出動現場の関係者との話を聞かされた時、市民に寄り添った対応であることが良く分った。ここで座間消防の益々の発展を祈念してこの度の取材を終えた。

文／写真 [高橋義一](#)（高橋ぎいち）

取材協力：神奈川県座間市消防署

翻訳編集 JST 客観日本編集部